

平成30年～令和3年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)
自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人びわ湖芸術文化財団 滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール		
施 設 名	滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール		
助 成 対 象 活 動 名	びわ湖ホール三方よし創造実践事業		
助 成 期 間	5		(年間)
内 定 額	平成30年度	54,425	(千円)
	平成31年度	52,233	
	令和2年度	50,990	
	令和3年度	50,037	

1. 事業概要

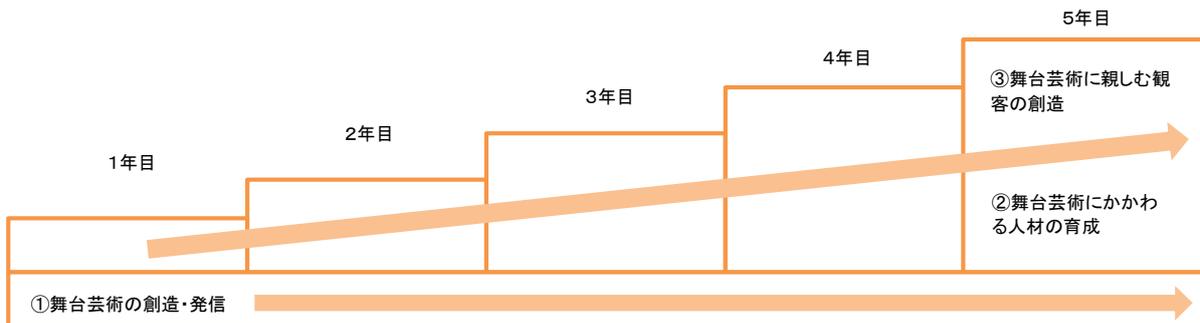
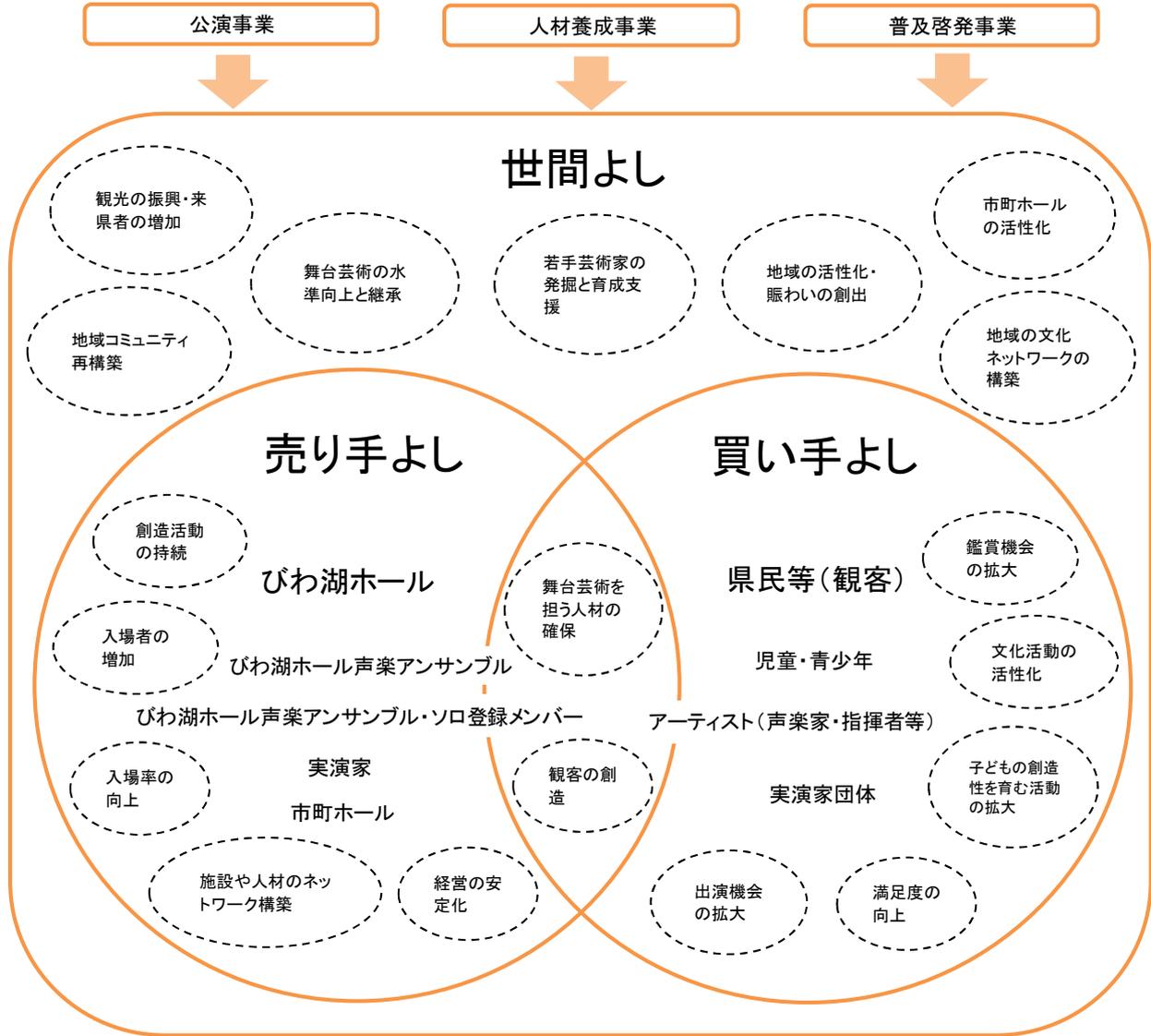
(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

（事業名）びわ湖ホール三方よし創造実践事業

近江商人の発祥の地、滋賀では、近江商人が商売の心得とした「三方よし」（「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」を三つの「よし」とし、売り手と買い手がともに満足し、また社会貢献もできるのがよい商売であるということ）の精神が息づいています。

びわ湖ホールは、この「三方よし」になぞらえて、売り手（びわ湖ホール）と買い手（県民をはじめとする観客）がともに満足し、また世間よし（地域の活性化、舞台芸術の水準向上と継承）を目指し、「①舞台芸術の創造・発信」「②舞台芸術にかかわる人材育成」「③舞台芸術に親しむ観客の創造」を目標に公演事業および人材養成事業、普及啓発事業に取り組みます。



公演事業

人材養成事業

普及啓発事業

2018年度

- ・プロデュースオペラ「ジークフリート」
- ・英国パーミンガム・ロイヤルバレエ
- ・フィリップ・ドゥクフレ/DCA
- ・ジルヴェスター・コンサート2018-2019
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.5

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅣ
- ・イタリア声楽曲研修Ⅰ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演オペラ「森は生きている」
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！
- ・子どものための管弦楽教室 第15回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.10
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2019年度

- ・プロデュースオペラ「神々の黄昏」
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2019-2020
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.6
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅤ
- ・イタリア声楽曲研修Ⅱ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！
- ・子どものための管弦楽教室 第16回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.11
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2020年度

- ・プロデュースオペラ
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2020-2021
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.7
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅥ
- ・イタリア声楽曲研修Ⅲ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！
- ・子どものための管弦楽教室 第17回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.12
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2021年度

- ・プロデュースオペラ
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2021-2022
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.8
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅦ
- ・フランス歌曲研修Ⅰ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！
- ・子どものための管弦楽教室 第18回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.13
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

2022年度

- ・プロデュースオペラ
- ・海外招聘バレエ・ダンス
- ・ジルヴェスター・コンサート2022-2023
- ・スタンウェイ“ピノ”シリーズvol.9
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演
- ・びわ湖ホール声楽アンサンブル東京公演
- ・びわ湖ホール四大テノール公演

- ・沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅧ
- ・フランス歌曲研修Ⅱ
- ・舞台技術研修

- ・地域協働公演
- ・びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！
- ・子どものための管弦楽教室 第19回
- ・気軽にクラシック
- ・アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vol.14
- ・ロビーコンサート
- ・各種講座
- ・ふれあい音楽教室
- ・学校巡回公演
- ・バックステージツアー

舞台芸術の創造・発信
(自主制作公演・海外招聘公演の上演)

舞台芸術にかかわる人材育成
(声楽アンサンブル、オペラ指揮者の育成)

舞台芸術に親しむ観客の創造
(青少年や児童の入場者の増加)

びわ湖ホール「三方よし」の実現

(2) 令和3年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	びわ湖ホール プロデュー スオペラ ワーグナー作 曲『パルジファル』	令和4年3月3日、6日	構成：伊香修吾、指揮：沼尻竜典、 管弦楽：京都市交響楽団、出演：福 井敬、妻屋秀和、青山貴 ほか	目標値	2,672
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,993
2	名曲コンサート	令和4年1月8日、2月6日	【1/22】指揮：鈴木優人、管弦楽： 日本センチュリー交響楽団【2/6】竹 澤恭子、宮田 大、田村 響	目標値	2,405
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,586
3	ジルヴェスター・コンサ ート2021	令和3年12月31日	指揮：阪 哲朗、管弦楽：大阪交響楽 団、ヴァイオリン：三浦文彰、司会： 桂 米團治	目標値	1,497
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,077
4	びわ湖ホール声楽アンサ ンブル定期公演	令和3年11月6日、7日、 令和4年3月26日	【73回、東京公演】指揮：沼尻竜典、 ピアノ：渡辺治子、越知晴子【74回】 指揮：園田隆一郎、弦楽による伴奏	目標値	1,624
		びわ湖ホール大ホール 東京文化会館小ホール		実績値	843
5	大人の楽しみ方	令和3年7月17日、10月3 日、31日、11月27日(中止)	【7/17】ピアノ：小曾根 真【10/3】シタ ール：石濱匡雄、タブラ：U-zhaan【10/31】 山中千尋トリオ【11/27 中止】アヌーナ	目標値	3,286
		びわ湖ホール大ホー ル、小ホール		実績値	1,701
6	松山バレエ団「ロミオとジ ュリエット」	令和3年9月25日	ジュリエット：森下洋子、ロミオ： 大谷真郷、台本・構成・演出・振付： 清水哲太郎	目標値	1,345
		びわ湖ホール大ホール		実績値	886
7	スタインウェイ “ピノ” シリーズ vol.7	令和3年10月16日	ピアノ・構成：河原忠之、出演：び わ湖ホール声楽アンサンブル・ソロ 登録メンバー、演目：『夕鶴』 ほか	目標値	255
		びわ湖ホール小ホール		実績値	213
8	林康子 声楽曲セミナー	令和3年11月16日～ 18日	講師：林 康子、受講者：びわ湖ホー ル声楽アンサンブル・メンバー	目標値	200
		びわ湖ホール小ホール		実績値	305
9	令和3年度 びわ湖ホー ル舞台技術研修 ～人 材育成講座～	令和4年3月19日	演出家：ごまのはえ、振付：山田レ イ、受講者：近隣大学の学生、出演： 公募オーディションによる一般公募	目標値	350・100
		びわ湖ホール中ホール		実績値	304・129
10	オペラ指揮者セミナーⅦ ～『カルメン』指揮法～	令和4年4月10日～ 12日	講師：沼尻竜典、管弦楽：大阪交響 楽団、受講者：大森大輝、出口大地、 松川 創、松川智哉、森田真喜	目標値	357
		びわ湖ホール大ホール		実績値	557
11	びわ湖ホール 音楽会へ出 かけよう！（ホールの子事 業）	令和3年5月25日～28 日、31日、6月1日	指揮：沼尻竜典、管弦楽：京都市交 響楽団、出演：びわ湖ホール声楽ア ンサンブル、演目：ポレロ ほか	目標値	11,000
		びわ湖ホール大ホール		実績値	7,785
12	子どものための管弦楽教 室	令和4年3月21日	指揮：藤岡幸夫、管弦楽：関西フィ ルハーモニー管弦楽団、司会：空井 仁美、演目：スペイン奇想曲 ほか	目標値	944
		びわ湖ホール大ホール		実績値	975
13	気軽にクラシック	令和3年8月25日、2 月19日、3月13日	【8/25】ヴァイオリン：赤松由夏、ピアノ：北川恵 美【2/19】バス：松森 治、ピアノ：掛川歩美【3/13】 ソプラノ：黒田恵美、ピアノ：植松さやか	目標値	1,084
		びわ湖ホール小ホール		実績値	536

14	アンサンブルの楽しみ～ 演奏家のつどい～vol. 13	令和3年11月21日	出演者：公募により10組を選出、 ゲスト演奏：和谷泰扶（ハーモニ カ）、松尾俊介（ギター）	目標値	271
		びわ湖ホール小ホール		実績値	285
15	びわ湖ホール ロビーコ ンサート	実施なし	新型コロナウイルス感染症の影響 で公演を中止した。	目標値	1,800
				実績値	-(中止)
16	ホスピタルコンサート	令和3年11月9日、12月 4日、ほか4公演（中止）	【11/9】マリンバ・パーカッション： 深田瑞穂、國領愛歩【12/4】フルー ト：小林千晶、山本梨奈	目標値	200
		滋賀県立むれやま荘、 東近江敬愛病院、ほか		実績値	129
17	各種講座（オペラ講座・ ワークショップ等）	令和3年5月29日ほ か11回	講師：東条碩夫、岡田安樹浩、伊東 史明、藤野一夫、青山登志和、出演： 沼尻竜典、岡田暁生 ほか	目標値	892
		びわ湖ホール小ホール ほか		実績値	1,274
18	ふれあい音楽教室	令和4年1月から3月	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブ ル	目標値	600
		滋賀県内小学校		実績値	963
19	びわ湖ホール声楽アンサ ンブル 学校巡回公演	令和3年5月6日、7日、 10日、11日、14日	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブ ル	目標値	3,000
		滋賀県内小中学校		実績値	1,065
20	地域連携公演 子ども向 けオペラ「泣いた赤鬼」	令和3年11月18日	演出：中村敬一、指揮：大川修司、 ピアノ：掛川歩美、梁川夏子、出演： びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	1,600
		守山市民ホール		実績値	1,256
21	バックステージツアー 「びわ湖ホールまるっと ステージツアー」	令和3年8月21日、 23日	参加者：ホームページにて公募、講 師：びわ湖ホール職員	目標値	162
		びわ湖ホール大ホール		実績値	104

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(3) 令和2年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	びわ湖ホール プロデューズオペラ ワーグナー作曲 歌劇『ローエングリン』	令和3年3月6日、7日	演目：ワーグナー作曲『ローエングリン』。指揮：沼尻竜典、ステージング：栗國淳、新型コロナウイルスの影響でセミ・ステージ形式に変更。	目標値	2,672
		びわ湖ホール大ホール		実績値	2,243
2	ジルヴェスター・コンサート 2020-2021	令和2年12月31日	指揮：阪哲朗、司会：桂米團治、ヴァイオリン：服部百音、管弦楽：大阪交響楽団、構成・台本：中村敬一	目標値	1,498
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,125
3	パレルモ・マッシモ劇場 ヴェルディ作曲 歌劇『ナブッコ』	令和2年6月27日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	1,340
		びわ湖ホール大ホール		実績値	—※
4	ポリショイ・バレエ「スパルタクス」	令和2年11月27日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	1,345
		びわ湖ホール大ホール		実績値	—※
5	びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演(第71回、第72回)	令和2年9月12日、 令和3年3月27日	【71回】指揮：大川修司、演目：ロッシーニ アヴェ・マリアほか【72回】指揮：沼尻竜典、演目：小林秀雄 落葉松ほか	目標値	527
		びわ湖ホール大ホール		実績値	809
6	びわ湖ホール声楽アンサンブル 日本の美しい歌	令和2年8月10日	演目：琵琶湖周航の歌、昭和・平成のヒットソング、指揮：本山秀毅、独唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル、管弦楽：京都フィルハーモニー室内合奏団	目標値	829
		びわ湖ホール大ホール		実績値	742
7	オペラ指揮者セミナーVI～『ヘンゼルとグレーテル』指揮法～	令和2年8月4日、5日、6日	講師：沼尻竜典、管弦楽：大阪交響楽団、ソリスト：森季子ほか、合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	323
		びわ湖ホール大ホール		実績値	367
8	イタリア声楽曲研修Ⅲ	令和2年8月30日、31日 (中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	221
		びわ湖ホール小ホール		実績値	—※
9	令和2年度 びわ湖ホール舞台技術研修～人材育成講座～	令和2年5月から令和3年3月	演出家：ごまのはえ、振付：山田レイ、演技指導：劇団ニットキャップシアター	目標値	300・100
		びわ湖ホールほか		実績値	466・137
10	地域協働公演 サリヴァン作曲 オペラ『ミカド』	令和2年10月から11月 公演予定(中止)※	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	2,400
		滋賀県立文化産業交流会館ほか3会場		実績値	—※
11	びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！(ホールの子事業)	令和2年6月9日、10日、11日、15日、16日、17日(中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	11,000
		びわ湖ホール大ホール		実績値	—※
12	子どものための管弦楽教室 第17回	令和3年3月21日	曲目：ビゼー「カルメン」組曲よりほか、指揮：藤岡幸夫、管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団、司会：空井仁美	目標値	944
		びわ湖ホール大ホール		実績値	704
13	気軽にクラシック	令和2年9月6日、28日、令和3年2月20日、3月14日	出演者：田中正也、上村文乃、沼尻竜典、小谷口直子、迎肇聡、關口康祐	目標値	1,084
		びわ湖ホール小ホール		実績値	924

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	円熟を聴く	令和2年8月29日 (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	542
		びわ湖ホール小ホール		実績値	—※
15	アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～vo. 12	令和2年9月21日	司会・ゲストプレイヤー：Adam、出演：公募で選ばれた8組	目標値	271
		びわ湖ホール小ホール		実績値	168
16	びわ湖ホールロビーコンサート	年度通じて (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	2,700
		びわ湖ホールメインロビー		実績値	—※
17	ホスピタルコンサート	令和2年9月16日、24日 ほか2公演中止	出演者：Cattleya Saxophone Quartet、本田千鈴、白石尚美、西川静、亀井友恵、上田明美	目標値	400
		養護老人ホームきぬがさほか		実績値	221※
18	各種講座（オペラ講座・ワークショップ等）	令和2年11月29日ほか7回	講師：東条碩夫、岡田安樹浩、伊東史明、藤野一夫、出演：沼尻竜典、岡田暁生、粟國淳、菅原多敢弘	目標値	977
		びわ湖ホールリハーサル室ほか		実績値	870
19	びわ湖ホール声楽アンサンブル学校巡回公演	令和2年5月8日、11日、12日、14日、15日 (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響で公演を中止した。	目標値	3,000
		滋賀県内小中学校		実績値	—※
20	ふれあい音楽教室	令和2年10月から11月	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	1,000
		滋賀県内小中学校		実績値	783※
21	バックステージツアー「びわ湖ホールまるっとステージツアー」	令和2年11月23日、12月13日	企画：びわ湖ホール事業部	目標値	180
		びわ湖ホール大ホール		実績値	143

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

(4) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	びわ湖ホールプロデュースオペラ ワーグナー作曲『神々の黄昏』	3月7日、8日	演目：ワーグナー作曲『神々の黄昏』指揮：沼尻竜典、演出：ミヒヤエル・ハンペ ライブ配信視聴者413,513ビュー	目標値	3,173
		びわ湖ホール大ホール		実績値	無観客
2	ジルヴェスター・コンサート 2019-2020	12月31日	指揮：沼尻竜典、司会：桂米團治、ピアノ：牛田智大、管弦楽：大阪交響楽団、演出・構成：岩田達宗	目標値	1,497
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,636
3	エイフマン・バレエ『アンナ・カレーニナ』	7月13日	演目：アンナ・カレーニナ、音楽：P.I. チャイコフスキー、振付：ボリス・エイフマン	目標値	1,430
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,025
4	アリーナ・コジョカル <ドリームプロジェクト 2020>	2月11日	主な出演：アリーナ・コジョカル、セルゲイ・ポルーニン、ヨハン・コポー、木村和夫、東京バレエ団ほか	目標値	1,430
		びわ湖ホール大ホール		実績値	1,350
5	びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演（第69回、第70回、東京公演 vol.11）	9月14日、16日	【第69回/東京公演】指揮・ピアノ：寺嶋陸也、演目：林光 宮沢賢治の詩によるソングアルバム 【第70回】中止	目標値	952
		びわ湖ホール小ホール/東京文化会館		実績値	894
6	スタインウェイ“ピノ”シリーズ vol.6	7月6日	ピアノ・解説：園田隆一郎、出演：竹内直紀、二塚直紀、山本康寛	目標値	287
		びわ湖ホール小ホール		実績値	272
7	沼尻竜典オペラ指揮者セミナーV	8月5日、6日、7日	講師：沼尻竜典、ピアノ：平塚洋子、湯浅加奈子、管弦楽：大阪交響楽団、ソリスト・合唱：松森 治ほか	目標値	301
		びわ湖ホール大ホール		実績値	434
8	イタリア声楽曲研修	8月22日、23日	受講者：びわ湖ホール声楽アンサンブル、講師：山崎美奈、ピアノ：岡本佐紀子	目標値	127
		びわ湖ホール小ホール		実績値	214
9	びわ湖ホール舞台技術研修～人材育成講座～	5月～3月（一部中止）	講師：ごまのはえ、振付：山田レイ 演技指導 劇団ニットキャップシアター	目標値	127
		びわ湖ホールほか		実績値	中止（公演部分）
10	子ども向けオペラ『泣いた赤鬼』	10月16日ほか10回	指揮：大川修司、演出：岩田達宗、演出助手：奥野浩子、ピアノ：掛川歩美、小林千夏、大村夢 出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	2,730
		高時小学校ほか		実績値	2,770
11	びわ湖ホール 音楽会出かけよう！	5月28日ほか5回	指揮：ステファン・ブルニエ、管弦楽：京都市交響楽団、独唱・合唱：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	11,000
		びわ湖ホール大ホール		実績値	10,948
12	子どものための管弦楽教室 第16回	3月22日予定（中止）	指揮：藤岡幸夫、管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団	目標値	1,003
		びわ湖ホール大ホール		実績値	中止
13	気軽にクラシック	8月29日、9月23日、11月2日、12月16日	出演者：二塚直紀、植松さやか、酒井夕彩、岡本伸一郎、石上真由子、奥田なな子、黒川冬貴、ほか	目標値	1,084
		びわ湖ホール小ホール		実績値	1,182

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
14	アンサンブルの楽しみ ～演奏家のつどい～	10月14日	司会：中谷満 出演：公募により選ばれた10組およびゲストプレイヤー石上真由子ほか3名	目標値	271
		びわ湖ホール小ホール		実績値	266
15	ホスピタルコンサート	10月2日ほか3回	出演者：古延佑里子、青木浅間、飯島幸子、島影聖人、中西恵子、岩田玲奈、小林千夏、脇阪法子、小林朱音	目標値	200
		県内医療機関4か所		実績値	380
16	各種講座（舞台芸術講座、オペラ講座、ワークショップ）	4月20日ほか11回	講師：青山登志和、東条碩夫、岡田安樹浩、伊東史明、藤野一夫	目標値	720
		びわ湖ホールリハーサル室ほか		実績値	1,301
17	びわ湖ホールロビーコンサート	7月3日ほか15回	出演：片岡リサ、葉衛陽、しままなぶ、津國直樹、中嶋康子、船橋美穂、川北朋、曾我香織、初瀬川未雪 ほか	目標値	5,500
		びわ湖ホールメインロビー		実績値	4,271
18	ふれあい音楽教室	9月20日ほか7回	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	900
		県内小学校（25クラス）		実績値	782
19	びわ湖ホール声楽アンサンブル学校巡回公演	5月9日、10日、15日	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	3,000
		県内小中学校（6校）		実績値	1,813
20	バックステージツアー	6月22日、2月1日	企画：びわ湖ホール事業部	目標値	200
		びわ湖ホール大ホール		実績値	176

(5) 平成30年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場			
1	びわ湖ホールプロデュースオペラ ワーグナー作曲『ジークフリート』	3月2日、3日	演目：ワーグナー作曲『ジークフリート』、指揮 沼尻竜典、演出ミヒヤエル・ハンペ	目標値	2,672
		大ホール		実績値	3,344
2	英国バーミンガム・ロイヤルバレエ団『眠れる森の美女』	5月13日	演目：眠れる森の美女、主な出演者：佐久間奈緒、厚地康雄、英国バーミンガム・ロイヤル・バレエ団	目標値	1,480
		大ホール		実績値	1,333
3	フィリップ・ドゥクフレ/DCA「新作短編集(2017)」	7月14日、15日	演出・振付：フィリップ・ドゥクフレ、主な出演者：フィリップ・ドゥクフレ、カンパニーDCA	目標値	912
		中ホール		実績値	725
4	ジルヴェスター・コンサート2018-2019	12月31日	指揮 沼尻竜典、司会、桂米團治、ヴァイオリン独奏 戸田弥生、管弦楽 大阪交響楽団	目標値	1,530
		大ホール		実績値	1,385
5	スタインウェイ“ピノ”シリーズ vol.5 ベルカンティッシモ!	11月23日	ピアノ・解説：園田隆一郎、歌手：松下美奈子、森季子、清水徹太郎、山本康寛	目標値	271
		小ホール		実績値	230
6	沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅣ	8月1日～3日	講師 沼尻竜典、ピアノ 平塚洋子、湯浅加奈子、管弦楽 大阪交響楽団 ほか	目標値	301
		大ホール		実績値	310
7	イタリア声楽曲研修Ⅰ	5月24日、5月25日	講師：山崎美奈、ピアノ：岡本佐紀子	目標値	110
		小ホール		実績値	163
8	びわ湖ホール舞台技術研修～人材育成講座～	3月11日～3月16日	演出：ごまのはえ、振付：山田レイ、演技指導：劇団ニットキャップシアター	目標値	180
		大ホール等		実績値	805
9	びわ湖ホール声楽アンサンブル みんなで作ろう！林光作曲 オペラ『森は生きている』	11月29日、12月6日、8日、12日	演出：中村敬一、ピアノ：寺嶋陸也、出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル、地域の合唱団	目標値	3,150
		守山市民ホール、他3か所		実績値	2,098
10	びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）	6月4日、5日、6日、7日、8日、11日	指揮：角田鋼亮、管弦楽：京都市交響楽団、独唱・合唱、びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	11,000
		大ホール		実績値	9,324
11	子どものための管弦楽教室 第15回	3月24日	指揮：飯守泰次郎、管弦楽：関西フィルハーモニー管弦楽団、独唱：基村昌代、二塚直紀、的場正剛 ほか	目標値	1,003
		大ホール		実績値	851
12	気軽にクラシック	8月20日、12月9日	出演：竹内直紀(8月20日)、Adamサクソフォン四重奏団(12月9日)	目標値	574
		小ホール		実績値	623

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
13	アンサンブルの楽しみ ～演奏家のつどい～ vol.10	10月14日	公募によるプレイヤー10組、ゲストプレイヤー 松村衣里、中山航介	目標値	223
		小ホール		実績値	260
14	びわ湖ホールロビーコンサート	年間計14回	安永 早絵子(打楽器)、石井楓子、イリーナ・メジューエワ、寺嶋陸也、佐藤卓史、岡本佐紀子、伊藤晴ほか	目標値	2,400
		メインロビー		実績値	3,325
15	各講座(舞台芸術講座、オペラ講座、ワークショップ)	年間計12回	講師：青山登志和、東条碩夫、岡田暁生、藤野一夫、田口道子、ほか	目標値	880
		リハーサル室等		実績値	1,754
16	ふれあい音楽教室	全5日16クラス	出演：びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	900
		県内小学校		実績値	442
17	びわ湖ホール声楽アンサンブル 学校巡回公演	全5日10校	指揮：大川修司、ピアノ：寺嶋陸也、沼光絵理佳、びわ湖ホール声楽アンサンブル	目標値	3,000
		県内小学校		実績値	3,357
18	バックステージツアー「びわ湖 ホールまるっとステージツアー」	8月9日、1月11日	解説：びわ湖ホール舞台技術部職員	目標値	180
		大ホール		実績値	159

2. 自己評価

(1) 妥当性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。

当財団は、滋賀県文化振興基本方針に掲げる基本目標「文化芸術の力で心豊かな活力ある滋賀を創る」を実現するため、当財団中期経営計画において、(1)優れた舞台芸術の創造と県内外への発信、(2)、次世代を担う子どもたちの創造性を育む取組の充実、(3)若手芸術家の発掘と育成・支援、(4)県民の主体的な文化活動の支援、(5)文化芸術の力を活かした地域活性化の5つを基本方針として、複合的に事業を展開しています。

これらを踏まえ「びわ湖ホール三方よし創造実践事業」では、①舞台芸術の創造・発信、②舞台芸術にかかわる人材育成、③舞台芸術に親しむ観客の創造をアウトカムとして、2021年度は、本助成対象事業として21事業を計画していましたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から1事業をやむなく中止としました。また県のガイドラインに沿って、ほぼ客席数の制限なくチケットを販売してはいたものの、コロナ禍前のようにお客様にご来場いただくことは叶いませんでした。しかしコロナ禍の中でも、たとえば出演者同士が密にならないよう演出そのものを工夫するなどにより、「芸術文化の灯を消さない」を合言葉に事業実施に努めたことで、ご来場いただいた方からは概ね好評をいただくことができました。

①舞台芸術の創造・発信では、オペラを自主制作し、県内外に舞台芸術を創造発信するとともに、その水準の維持・向上および継承、ノウハウの蓄積を図りました。残念ながら「子供向けオペラ『泣いた赤鬼』」巡回公演では二つの会場の公演が中止となってしまいましたが、それ以外の公演では入念な感染症対策のもとに公演を実施しました。それにより、地域の方々に優れた舞台芸術を鑑賞いただく機会となるとともに、国内有数のメディアで公演が多数取り上げられるなど県外への発信についても大きな成果を上げることができました。

②舞台芸術にかかわる人材育成では、「オペラ指揮者セミナー」「林康子 声楽曲セミナー」「びわ湖ホール舞台技術研修」を実施し、若手実演家・舞台スタッフの育成を図り、指揮者をはじめ声楽家、舞台の裏方など日本の舞台芸術を支える人材の育成に貢献しました。また自主制作のオペラには「びわ湖ホール声楽アンサンブル」はもとより、若手の演奏家を積極的に起用したことで、経験豊富な指導者・演出家たちとのコラボレーションが実現し、次世代を担う若い音楽家たちがより成長する場を提供することができました。

③舞台芸術に親しむ観客の創造では、アウトリーチ型事業の「学校巡回公演」「ふれあい音楽教室」「子供向けオペラ『泣いた赤鬼』」および劇場訪問型公演「びわ湖ホール 音楽会に出かけよう！」を県内の小・中学校等を対象に実施し、授業や校外活動の一環として一流の演奏家による本物の芸術に触れ、舞台芸術の楽しさ・奥深さに触れていただく機会となりました。また各種講座や「びわ湖ホールまるっとステージツアー」を通し、子どもたちだけでなく大人にも、より舞台芸術を多角的に観ていただけるよう学びの機会を提供しました。

これらの事業を通して、優れた舞台芸術の創造・発信を行うとともに実演家・舞台スタッフの育成を図り、将来にわたり舞台芸術を愛好する観客の創造に貢献することが出来ました。

また、平成30年度から令和3年度までの4か年において、概ね事業実施は達成することが出来ましたが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、計11事業がやむなく中止となりました。

しかしながら4か年において、①に関しては助成をいただくことにより毎年度オペラ公演を新制作し、上演することができ、県民をはじめ多くの方に優れた舞台芸術を低価格で提供することが出来ました。②に関しては、イタリア声楽曲研修や定期公演等を通じて、優れた指導者から学び、多く研鑽を積むことにより、びわ湖ホール声楽アンサンブル(令和2年度卒団生)が日本音楽コンクール声楽部門第1位を受賞し、また文化庁芸術祭新人賞受賞者を輩出したことをはじめ、多くの卒団生が日本国内の様々な場所で声楽家として出演の場を得るなど、人材育成事業の効果が確実に現れています。③では、小中学生を中心としたアウトリーチを展開することで舞台

芸術を身近に感じてもらえるようになり、行く先々で好評をいただいています。

自己評価

助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。

文化的意義：びわ湖ホールは、四面舞台をはじめとする優れた舞台機能を有し、年間に複数本のオペラを自主制作する国内でも数少ない劇場の一つです。優れた舞台芸術を次の世代に継承していくためには、こうした自主制作を継続し、舞台制作技術の水準の維持・向上および継承、ノウハウを蓄積していくことが必要不可欠ですが、オペラの自主制作にはその制作資金の確保と舞台芸術にかかわる人材の育成が課題となっています。これらの課題解決のためには、助成の活用や寄付金を得ることにより制作資金を確保するとともに、実演家や舞台スタッフの育成を図っていく必要があります。当財団では舞台芸術を担う人材を育成するため、劇場専属の声楽家集団「びわ湖ホール声楽アンサンブル」を運営しており、全国から厳しいオーディションを経て採用されたメンバーが最長5年間の在籍中に、「声楽曲セミナー」等を通じて経験を積むことにより、若手声楽家の育成を図っています。これまで日本中ひいては世界のオペラ劇場で活躍する「舞台人」を数々輩出し、多くの者が在籍中の経験を活かして音楽大学等で後進の育成に当たっています。また、人材が不足しがちなオペラ指揮者を育成するために、プロのオーケストラや「びわ湖ホール声楽アンサンブル」のソリストたちを前に学ぶ「指揮者セミナー」の開催により、志ある若手指揮者に向けて貴重な学習機会を提供しています。過去の受講生たちは日本各地のオペラ・プロダクションで正指揮者・副指揮者に続々と抜擢され活躍しています。さらに、地元芸術系大学との連携事業である「舞台技術研修」は、第一線で活躍するプロフェッショナルを講師に据え、舞台作品を制作しながら進行管理、舞台音響、衣裳・映像デザインなどを学ぶ場として継続的に開講しています。

社会的意義：上記の取り組みで育成した人材と自治体・県教育委員会等の協力を得ながら、「びわ湖ホール声楽アンサンブル」を核とした鑑賞型・訪問型の普及事業を推し進めています。特に、小学生等をホールに招待して公演を行う「びわ湖ホール 音楽会へ出かけよう！」は、子どもたちに生のオーケストラや声楽に触れていただく特別な機会として力を注いでいます。小学校だけでなく、特別支援学校をはじめ、心身にハンディキャップを抱えている子どもたち、不登校の子どもたち、学校教育の枠組みの外にある日系ブラジル人学校等にも広く呼びかけて参加いただいております。社会包摂の面からも大きな意義のある普及活動を続けています。来場した子どもたちからは「初めて聞くオーケストラや歌手が凄かった」「将来舞台に立ってみたい」という声を数多くいただいております。このほかにも、「学校巡回公演」や「ふれあい音楽教室」、「ホスピタル・コンサート」といったアウトリーチ活動では、普段びわ湖ホールまで足を伸ばすことのできない子どもたち・患者の皆さまに、一流の歌手・演奏家たちによる演奏に触れていただきました。歌手との合唱等は令和3年度もコロナ禍前のように叶いませんでしたが、リズムに乗って手拍子をしていただいたり、体を揺らしていただくよう促すなど、共に音楽を楽しむ時間を作るよう心掛けています。その結果「感動した」「楽しかった」という感想を子どもたちや患者さまだけでなく、現場の教員や医療関係者からも多数いただき、大いに社会的意義のある事業となっていると考えています。

「ジルヴェスター・コンサート」の一般合唱やファンファーレ隊の一般公募は、感染症防止の観点から令和3年度も実施できませんでしたが、アマチュアの音楽家を募り、芸術文化の拠点である“あこがれのびわ湖ホール”の舞台に出演するという「アンサンブルの楽しみ～演奏家のつどい～」で県民の地域文化活動への参加を促進することができました。令和2、3年度は「ロビーコンサート」が開催できませんでしたが、助成をいただいたことで「気軽にクラシック」等の低料金もしくは無料の公演を実施でき、舞台芸術に親しむ観客の創造に繋げることができました。

経済的意義：県内ホールと連携した「地域連携公演」はかねてより市町ホールとの交流により地方の芸術活動を活発化させる機会となっていました。令和3年度に新制作した「子ども向けオペラ 『泣いた赤鬼』」では伝統的な布や特産品をオペラの舞台衣装や小道具に取り入れ、公演の前後に物販コーナーを設けるなどの試みを開始しました。鑑賞を通して滋賀に根付く昔ながらの地場産業を知っていただく機会となり、地域コミュニティ・

経済の活性化に貢献しました。

(2) 有効性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

○目標

【①舞台芸術の創造・発信】

優れた舞台機能を活かした大規模オペラ公演の新制作に力を入れ、また入門向け公演やネットワークを活かした舞踊・演劇公演等、多彩なジャンルの舞台芸術を実施し、県民・関西圏の住民を中心に舞台芸術を発信する。

【②舞台芸術にかかわる人材育成】

公演・研修事業を通して専属声楽家団体「びわ湖ホール声楽アンサンブル」メンバーを一流の「舞台人」へ成長させ、また人材不足が叫ばれるオペラ指揮者・舞台技術スタッフの育成に努める。

【③舞台芸術に親しむ観客の創造】

県内小学校を対象としたホール公演・訪問型公演や県内ホールでの巡回公演、愛好家とのコラボレーション、青少年チケット料金の設定などを将来に渡って行い、舞台芸術を愛好する観客を創造する。

○達成状況

【①舞台芸術の創造・発信】

令和3年度は40事業62公演の自主事業を予定し、36事業58公演を実施しました（4事業4公演は新型コロナウイルス感染症拡大等により中止）。渡航制限により海外アーティストの来日公演は中止となってしまいましたが、オール日本人キャストで実施した「プロデュースオペラ」をはじめ国内の一流アーティストたちの力を結集することで滋賀県民はもとより関西圏の住民に、首都圏と同レベルの多彩な舞台芸術に触れる機会を提供しました。

【②舞台芸術にかかわる人材育成】

「びわ湖ホール声楽アンサンブル」は「プロデュースオペラ」や「定期公演」等への参加を通して一流のアーティスト・スタッフとコラボレーションし、「林康子 声楽曲セミナー」では、イタリアで活躍した世界的ソプラノ歌手による直々のレッスンという得難い経験を積むことが出来ました。4年間で輩出した14名（卒業者）の歌手たちは国内外のオペラ公演で活躍しています。また、令和3年度は5人の受講者に対して「沼尻竜典オペラ指揮者セミナーⅦ」を開催し、4年間の総受講者は20人となりました。「舞台技術研修」では、大学等と連携し実際の舞台作品の製作・実演を通じて、舞台技術スタッフおよび次世代の人材の育成を図りました。

【③舞台芸術に親しむ観客の創造】

令和3年度は年間29,386人のお客様にご来場いただき、4年間で累計入場者数は133,693人になりました。加えて引き続きオンライン配信にも力を入れ、年間での配信視聴者数は517人となりました。オンライン配信の実施により、様々な事情でご来場できない方や遠方在住の方に当劇場の事業に触れていただく機会となりました。

また、滋賀県内の子どもたちに舞台芸術に親しみを持ってもらうことを目的とした公演としては「音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」「学校巡回公演」を令和元年度から2年ぶりに開催し、「ふれあい音楽教室」での声楽アンサンブルメンバーによる訪問授業と併せて、子どもたちがプロの演奏家による本物の音楽の素晴らしさに触れる機会を提供出来ました。このほかにも、低廉なチケット料金が魅力の「気軽にクラシック」の実施や、一部公演で青少年向けの割引料金を設定することにより、新しく劇場に足を運んでいただけるお客様の開拓に努めました。また「子供向けオペラ『泣いた赤鬼』」では訪問先の合唱団・児童合唱団とコラボレーションし、さらに地域の名産品を舞台衣裳・小道具に取り入れることで地場産業をも巻き込んだ地域連携公演となりました。

以上のことから、概ね目標を達成できたものと考えます。

○ロジックモデルによる説明

インプット	アクション	アウトプット	アウトカム・中間成果
<ul style="list-style-type: none"> ●助成金・補助金（日本芸術文化振興会、民間助成、県補助金等） ●指定管理料 ●チケット収入等 ●寄付金・賛助金等 ●「びわ湖ホール声楽アンサンブル」、専属舞台スタッフ ●ホール施設 	<ul style="list-style-type: none"> ●公演・事業制作 ●声楽アンサンブル運営 ●広報活動 ●地域団体との積極的コラボレーション ●共同制作による事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●音楽公演→新制作によるレパートリー創造 ●研修事業→人材の輩出（音楽家・スタッフ） ●普及事業→初めて触れる舞台芸術体験の提供、新たな観客の創造、地域との繋がり強化 ●配信映像による新しい鑑賞体験 	<ul style="list-style-type: none"> ●より優れた舞台芸術の創造・発信 ●国全体における音楽・舞台技術者レベルの底上げ ●舞台芸術を愛好する鑑賞者の増加 ●地域（人・産業）の活性化

○舞台芸術の創造・発信

びわ湖ホール自主制作オペラの事業数

(単位:作品)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		2022年度
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標
プロデュースオペラ	1	1	1	1	1	1	1
オペラセレクション	1	1	1	0	1	1	1
オペラへの招待	2	2	1	1	2	2	2
計	4	4	3	2	4	4	4

○舞台芸術にかかわる人材育成

びわ湖ホール声楽アンサンブル卒団者数

(単位:公演)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		2022年度
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標
声楽アンサンブル卒団者数	1	9	1	3	3	1	3
累計	51	60	61	64	66	65	68

オペラ指揮者セミナーの受講生数

(単位:人)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		2022年度
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標
指揮者セミナー受講生数	5	4	5	5	5	5	5

○舞台芸術に親しむ観客の創造

地域連携公演の公演数

(単位:人)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		2022年度
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標
地域連携公演の公演数	8	4	11	0	6	2	6

小中学生向け事業参加者児童数

(単位:人)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		2022年度
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標
音楽会へ出かけよう!	8,194	8,544	10,948	0	14,000	7,785	14,000
学校巡回公演	2,183	3,357	1,879	0	3,000	1,065	3,000
ふれあい音楽教室	1,025	442	783	783	1,000	963	1,000
計	11,402	12,343	13,610	783	18,000	9,813	18,000

自主公演における青少年(25歳未満)の入場者数

(単位:人)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		2022年度
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標
自主公演における青少年の入場者数	4,910	3,233	1,951	1,120	5,160	1,750	5,210

自主公演アンケートにおける「よかった」割合

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度		2022年度
	実績	実績	実績	実績	目標	実績	目標
自主公演アンケートにおける「よかった」割合	96.9%	96.8%	97.5%	98.0%	97.0%	96.3%	97.0%

(3) 効率性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

令和3年度は5年間の事業計画の4年目として、前3年間で踏まえて、より効率的な事業の執行に努めました。

事業計画を通じて実施を計画しているプロデュースオペラでは、令和2年度に引き続き新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から「セミ・ステージ形式」で上演をしました。出演者やスタッフが市中感染に見舞われることはありましたが、稽古中のマスク着用徹底・検査キットでの陰性確認等を行うことでクラスター発生には至らず、開館以来20数年かけて蓄積したノウハウを活かして、継続して上演することが出来ました。長大なオペラ作品の上演には高度な歌唱と演技が同時に要求されるため、長時間に及ぶ稽古が必要であり、その間、演奏家や多くの舞台スタッフが拘束されます。しかしながら、令和3年度もコロナ禍であることを考慮して稽古・本番時の密を回避するために、舞台装置を制作し演出を凝らした本格的なオペラ上演を控えて「セミ・ステージ形式」に変更したことで大幅に稽古回数を減らし、約1か月程度で公演を制作することができました。これは感染症対策を考慮した苦肉の策であり通常時とは状況が異なるものの、結果的に視覚的なクオリティを下げないよう多くの工夫を凝らしたことで、公演アンケートの結果では「良かった」以上の回答を96.3%の方からいただきました。こうしたコロナ禍での公演ノウハウの蓄積によって、舞台芸術の持続性を確保することが出来ました。加えて、オンライン配信も引き続き実施し、遠隔地にお住まいであったり高齢であるなど様々な要因で劇場にお越しただけでない方に鑑賞機会を提供することで、新たに舞台芸術に親しむ観客の創造を図ることが出来たと考えています。これらの取組にかかる蓄積を次代に継承していきたいと考えています。

一方で、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、当初予定していた21事業のうち1事業を中止することとなりました。また、事業再編を余儀なくされたほか、海外アーティストの招聘公演や訪問型事業の中止、公演規模の縮小等が相次ぎ、感染症による影響を大きく受けました。

【大幅に日程等が変更された公演とその理由】

びわ湖ホール声楽アンサンブル定期公演：当初予定していた12月19日『利口な女狐』公演について、指揮者・演出家との協議により演出プランや上演言語の再検討等全体的な見直しが必要という結論に至り、延期しました。

大人の楽しみ方：「アヌーナ」が新型コロナウイルス感染症拡大による渡航制限につき来日不可となり、公演を中止しました。

イタリア声楽曲研修Ⅲ（林 康子 声楽曲セミナー）：イタリア在住の講師である山崎美奈氏が新型コロナウイルス感染症拡大による渡航制限につき来日不可となり、林 康子氏に講師を変更して実施しました。

気軽にクラシック：要望後に日程が決定しました。

ホスピタルコンサート、ふれあいコンサート：要望後に日程が決定しましたが、新型コロナウイルス感染症拡大により多数の訪問先で公演を中止しました。

まるっとステージツアー：新型コロナウイルス感染症拡大の影響により冬季の開催を中止しました。

以上のとおり令和3年度も新型コロナウイルス感染症の影響は継続していましたが、来場いただいたお客様からは高評価をいただいています。実演舞台芸術を取り巻く環境は大変厳しい状況ではありますが、これを大きな転機ととらえて、より効率的・効果的な事業の実施に取り組めます。

自己評価

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

令和3年度は5年間の事業計画の4年目として、前3年間で踏まえて、より効率的な事業の執行に努めました。その結果21事業中6事業で予算の増減を20%以内に収めることができました。特に事業計画中に毎年実施する「プロデュースオペラ」は、年に一度びわ湖ホールが総力を挙げて実施する大規模公演ですが、これまでの4年間の蓄積により、令和2年度以来の新しい試みである「セミ・ステージ形式」においても適正な積算額を算出することができ、要望額比89.30%という良好な予算消化率を達成することができました。他にも「名曲コンサート」「びわ湖ホール 音楽会に出かけよう!」「気軽にクラシック」等、びわ湖ホールが長年実施している公演については概ね積算通りの支出を行うことが出来ました。

しかしながらその他の公演については新型コロナウイルス感染症拡大の影響を大きく受けることとなりました。当初予定していた21事業のうち1事業（「ロビーコンサート」）は中止せざるを得ず、助成対象経費全体の要望時と決算時の比較（決算時/要望時）では22.52%減（77.48%）と新型コロナウイルス感染症による影響は非常に大きくなりました。「大人の楽しみ方」「イタリア声楽曲セミナー」では感染症拡大に伴う渡航制限により海外アーティストの招聘が叶わず、渡航・出演にかかわる経費が大幅に減少しました。国内の講師を招いて実施した「各種講座（オペラ講座・ワークショップ等）」についても、感染防止の観点から講師の滞在スケジュールを短縮したことにより交通・宿泊費が減少しました。市民参加型・訪問型の普及事業においても感染症の影響は著しく、「ジルヴェスターコンサート2021」では長年県民の皆さまとのコラボレーションとして参加型の合唱隊・ファンファーレ隊を結成・出演してもらっていましたが、コロナ禍であることを考慮し令和3年度も募集を見送ったため、それぞれ10回程度見込んでいた稽古の実施がなくなり、練習会場費や講師料が大幅に減少しました。「びわ湖ホールまるっとステージツアー」についても、ホールの利用状況と感染状況により舞台使用の調整が困難となり予定回数の開催ができず、経費が減少しました。訪問型事業である「ふれあい音楽教室」「ホスピタルコンサート」、また県内各地のホールとの協働を予定した「子供向けオペラ 泣いた赤鬼」は、感染者が大幅に増加している時期と実施日程が重なってしまったことから、訪問先からのキャンセルが相次ぎ、アーティスト出演料・交通費・運搬費等が大幅に減少しました。また関西圏ひいては日本全体での公演数が減少していることで、「スタインウェイ“ピノ”シリーズ」をはじめ令和3年度事業を通じてチラシ印刷費・広報費支出が減少しました。

このように、令和2年度に引き続き厳しい状況下ではありましたが、開館以来20数年かけて蓄積したノウハウを基礎としつつも、創意工夫を凝らし継続して公演を実施することが出来ました。こうしたコロナ禍での公演ノウハウの蓄積によって、舞台芸術の持続性を確保することが出来ています。加えて、令和3年度もオンライン配信にとどまらず、インターネットを活用したSNSでの発信強化など新たな取組にも挑戦することが出来、舞台芸術に親しむ観客の創造を図ることが出来たと考えています。これらの取組にかかる技術・ノウハウを蓄積し、さらに次代に継承していきたいと考えています。

令和3年度はコロナ禍であることを考慮し稽古・本番時の密を回避するために、舞台装置を制作し演出を凝らした本格的なオペラ上演を控え「セミ・ステージ形式」に変更して大幅に稽古回数を減らし、「オール日本人キャスト」での上演になったことにより、通常時の事業費と比較して2分の1程度に抑えることが出来ました。これは感染症対策を考慮した結果の苦肉の策であり通常時とは状況が異なるものの、多くの工夫を凝らしたことからこそ事業費を削減しつつも事業実施に至ったものと捉えています。新型コロナウイルス感染症の影響は継続しており、実演舞台芸術を取り巻く環境は大変厳しい状況ではありますが、実演舞台技術の大きな転機ととらえて、より効率的・効果的な事業の実施に取り組めます。

(4) 創造性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている(と認められる)か。

独創性:

当ホール専属の「びわ湖ホール声楽アンサンブル」は、満30歳以下の若手声楽家を対象に全国から厳しいオーディションを経て選ばれたプロの声楽家集団です。メンバーは事業計画に掲げる自主制作オペラや定期公演への出演、県内外の学校へのアウトリーチ事業等を行っています。単に公営劇場で唯一の専属声楽家集団であるというだけでなく、一流のアーティスト・指導者とコラボレーションする機会が豊富であることに関しても日本に類例がありません。それゆえ人材育成機関としても機能しており、卒団後もそれぞれが声楽家として国内外で活躍しています。2022年度現在で所属歌手は累計66名(現役・卒業生含)となり、びわ湖ホールの「創造活動の核」となっています。

また、びわ湖ホールの芸術監督は世界第一線級の指揮者である沼尻竜典であり、プロデュースオペラをはじめ自主制作公演について企画・芸術的助言を行っています。自らが講師を務める「オペラ指揮者セミナー」等に関し、劇場の芸術面を自らプロデュースすることでオリジナリティと高い水準が確保された公演を実施しました。

新規性:

びわ湖ホールでは年に3～4本のオペラを新制作し、海外演出家とのコラボレーションとなった《ニーベルングの指環》ツィクルス(～令和元年度)や《パルジファル》での新進演出家の起用(令和3年度)等、オペラの新地平を切り拓く試みを続けています。これは関西で初めて四面舞台を設置したホールと公営劇場唯一の専属声楽家集団である「びわ湖ホール声楽アンサンブル」というかけがえのない資源があつてのことです。

また「沼尻竜典指揮者セミナー」は歌劇場の芸術監督が指導するオペラ指揮者に特化したセミナーであり、類例のない試みです。沼尻竜典は経験豊富なオペラ指揮者であり、若手を育成する名教師として教鞭を振っています。また、経験豊かな「びわ湖ホール声楽アンサンブル」の歌手たちを起用することで、オペラ指揮者を志望する若手にオペラの現場の空気を全身で学んでいただいています。

先導性:

「びわ湖ホール声楽アンサンブル」はオペラ公演への出演に留まらず、個々がソリストとして活躍できる「声楽家」の集団であることから名だたる指揮者・作曲家たちの信頼を集め、新作合唱曲の初演や他の団体では演奏できない難曲の演奏をしています。中でも令和3年度「第73回定期公演」にて委嘱・初演を行った寺嶋陸也作曲「年を忘れた少年の歌」は楽譜の出版が決定し、日本中の学校や合唱団で演奏されるきっかけを作りました。

びわ湖ホールが持つ総力を結集して実施する「びわ湖ホール プロデュースオペラ」は、外国人スタッフたちと協働のもと関西で初めて《ニーベルングの指環》ツィクルスを達成(～令和元年度)しました。最終回である『神々の黄昏』公演は新型コロナウイルスがまさに流行しはじめた当初の時期であったため、お客様を迎えるの上演は叶いませんでしたが、YouTube上で実施した無料ライブ配信は世界中で話題となり41万人の視聴を得て、世界中でオペラ上演のライブ・アーカイブ配信が「ニューノーマル」となっていく端緒を切りました。また、その後も舞台上の密を避けて感染症対策をしながらオペラ上演を続ける工夫として「セミ・ステージ形式」をいち早く取り入れました(令和2～3年度「プロデュースオペラ」)。「びわ湖ホール声楽アンサンブル」と沼尻竜典を中心として実施したこの公演は好評を博し、厳しい制限下においても通常の上演に引けを取らない鑑賞体験を提供できることを世界に証明し、今では「セミ・ステージ形式」の上演が日本中で行われるようになりました。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

5か年計画では、びわ湖ホール「三方よし」の実現を目指し、3つの目標を持ち事業に取り組んでいるところです。1つ目が、「舞台芸術の創造・発信」です。最も力を入れているプロデュースオペラ『パルジファル』は、令和元年度に完結したワーグナーの大作《ニーベルングの指環》全四作、令和2年度の『ローエングリン』に続く上演として注目を集めました。新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から引き続き「セミ・ステージ形式」に変更しての上演であり、また《指環》公演で数々のファンを魅了してきたクリスティアン・フランツの来日が渡航制限によって叶わず完全なシングルキャスト公演になる等、厳しい状況ではありましたが、入場率は74.5%であり来場者アンケートにおいて「よかった」以上の回答を全体の96.3%からいただきました。満足度が高い要因の一つとして、公演に先立ち作品の背景や歴史を学ぶ機会となるプレトークやワークショップなどの講座を実施し、初めての方でも抵抗なく公演を楽しんでいただけるような伴走型の取組をしていることが考えられます。また新聞・音楽雑誌に掲載された公演評の多くで絶賛されたことにより、びわ湖ホールの事業の芸術的意義が国内の音楽ファンに周知され、評価向上につながったと考えます。さらに、令和元年度にオペラ『神々の黄昏』をYoutubeでライブ配信を行ったことを端緒として、以降オンライン配信やSNSでの情報発信にも注力し、様々な理由で劇場に足を運ぶことのできないお客様やネット世代の若者へのアプローチを行っています。国内だけでなく国外にもリーチしうる配信事業は大変話題になり、日本を代表するオペラハウスとしての認知度が向上したと考えます。

2つ目の「舞台芸術を支える人材の育成」として、「オペラ指揮者セミナー」は、令和3年度で7回目の実施となりました。オペラ指揮者に特化したセミナーは、世界的にも珍しく国内外からも注目度の高いセミナーとなっています。国内外から幅広く受講生を募り、経験豊かなプロのオーケストラ、びわ湖ホール声楽アンサンブルを前に指揮をすることで、非常にレベルの高いものとなっています。この貴重な機会を受講生に提供し、その様子を一般公開することによって日本のオペラ界を支える人材の育成を図りました。また、「びわ湖ホール舞台技術研修」では、公演参加型の舞台技術研修を行い、連携大学の学生が授業の一環として約1年をかけて国内有数のびわ湖ホールの舞台機構を活かしながら、びわ湖ホールのスタッフとともに実際に作品の制作を行い、成果発表公演を最終日に行うことで、舞台芸術を担う人材の育成を図りました。なお、びわ湖ホールの「創造活動の核」として、びわ湖ホール声楽アンサンブルを各事業に登用するとともに、多くの舞台・事業の経験を重ねることによって、若手声楽家の育成につながっています。歌手・スタッフ・観客の全てを育成・創造することを目指すびわ湖ホールの試みは業界内で知られるのみに留まらず、新聞やテレビにも多く取り上げられました。このことは、「創造し発信する劇場」としてびわ湖ホールの評価を向上させたと考えます。

3つ目の「舞台芸術に親しむ観客の創造」では、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため一部の公演はキャンセルとなってしまいましたが、地域協働公演「子供向けオペラ 泣いた赤鬼」「びわ湖ホール音楽会へ出かけよう！（ホールの子事業）」「学校巡回公演」といった地域住民や県内小学校等の子どもたちが参加や鑑賞という形で舞台芸術に親しむ機会を創る事業を実施することができました。また、「ジルヴェスター・コンサート」の一般合唱やファンファーレ隊の一般公募の中止により、県民の舞台芸術への参加機会が失われるなど、新しい観客の創造活動につながる事業が減少する中、「ふれあい音楽教室」は感染症対策を十分に施したうえで実施し、子どもたちにプロの歌声に触れられる体験を提供することが出来ました。参加・ご来館された方々からは「プロの演奏家・オーケストラ等を間近で聞くことができてよかった」等、好意的な感想をいただいております。これにより、「観客を創造する劇場」としての当館の評価が向上したと考えております。

これらのことから、第68回菊池寛賞、第51回ENEOS音楽賞（沼尻竜典芸術監督と同時）、第33回ミュージック・ペンクラブ賞などを受賞することが出来たと捉えています。

(5) 持続性 (平成30年～令和3年度 4か年分)

自己評価				
事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する(と認められる)か。				
	Plan	Do	Check	Action
事業運営	<ul style="list-style-type: none"> ●「びわ湖ホール声楽アンサンブル」を中核としたオペラ公演の複数年計画 ●理事会、評議員会での有識者との意見交換 ●外部アドバイザーとの協働による企画選定 ●他劇場との連携協定による共同制作 	<ul style="list-style-type: none"> ●公演制作 ●広報活動 ●SNS・広告等での積極的な情報発信 ●公演関連講座やWS等の積極的な開催 ●地域団体との積極的コラボレーション ●共同制作による事業実施 	<ul style="list-style-type: none"> ●公演後アンケート(紙、Web)の統計化 ●予算・事業費の管理 ●SNS広報効果の測定(フォロー、インプレッション数) ●自治体・地域団体との相互フィードバック ●連携による成果の振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ●前年度と連続性のある企画(リピート客を増やす工夫) ●新規事業への挑戦 ●よりターゲットされた広報活動 ●地域の芸術活動に寄与する活動の増加 ●自館の事業へのノウハウ応用
経営戦略	<ul style="list-style-type: none"> ●芸術的価値と社会的意義を両輪とした事業計画の策定 ●公的助成金・民間助成金の積極的活用 ●寄付金の募集 ●協賛金、賛助会員の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ●助成金の趣旨に合致した事業の申請 ●施設・HP等での寄付金募集の呼びかけ ●訪問・各種媒体での営業活動による協賛金の募集 ●新たなオフィシャルスポンサー・公演スポンサーの獲得 	<ul style="list-style-type: none"> ●助成採択結果をふまえての申請内容・事業内容見直し ●寄付金・協賛金利用状況の管理 ●寄付者・協賛者との協議(フィードバック) 	<ul style="list-style-type: none"> ●事業内容の向上に基づくより効率的な助成金申請 ●寄付・協賛の継続に繋がる価値・サービスの創造 ●新規寄付者・協賛者の開拓
人事戦略	<ul style="list-style-type: none"> ●県内の文化施策を牽引する芸術集団にふさわしい組織力の強化 ●財団内を超えた知識・ノウハウの共有 ●将来を担う若者たちを育成する事業の創出 	<ul style="list-style-type: none"> ●財団内の別ホールとの人事交流 ●管理職が外部セミナーに講師登壇 ●声楽アンサンブル運営、近隣大学との提携による研修、インターンシップ受け入れ 	<ul style="list-style-type: none"> ●人事交流対象者へのヒアリング ●セミナー実施後のアンケートによるフィードバック ●大学生・インターンシップ申込大学からのフィードバック 	<ul style="list-style-type: none"> ●館同士の強みを結集した組織作りの実現 ●より積極的に共有の機会を持つ ●より将来に資する研修内容の実施

以上のことから、新型コロナウイルス感染症拡大の影響は無視できないものでありながらも、事業計画は適正に遂行できており、持続的に発展するものと考えます。

自己評価

持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

持続的なアウトカムの発現・定着のためには持続的なインプットの増強が不可欠と考え、【①人材の育成および確保】【②助成金・補助金の積極的な獲得】【③寄付金・協賛金、会員の確保】【④地域との連携強化】に努めています。

【①人材の育成及び確保】

当館の創造的活動の核である「びわ湖ホール声楽アンサンブル」は最大5年間の在籍期間を通して一流の「舞台人」となるよう‘養成機関’としても運営しており、「プロデュースオペラ」や「定期公演」等での一流アーティスト・スタッフとのコラボレーションや「イタリア声楽曲研修」等のセミナー研修を通して育成を計っています。舞台スタッフについても事業を通して技術の習熟に励むだけでなく、「地域連携公演」での他ホールとの技術交流や「舞台技術研修」「バックステージツアー」等『教える』ことでより知識を深める機会に繋がっております。

【②助成金・補助金の積極的な獲得】

助成対象公演の中でも物的・人的リソースを特に多く必要とする「プロデュースオペラ」では、予算の獲得のために民間助成の募集に、令和3年度は2財団から170万円を獲得しました。また県内の文化財団に「学校巡回公演」の理念へご理解をいただき30万円の助成をいただきました。加えて県および教育委員会との連携のもと実施する「びわ湖ホール 音楽会に出かけよう！」では事業費にかかる半額程度を県補助金で賄うなど、収支状況の健全化に努めております。

【③寄付金・協賛金、会員の確保】

びわ湖ホール友の会やびわ湖ホール舞台芸術基金、オフィシャルスポンサー制度等、企業協賛など、新たな財源の確保を積極的に行っております。びわ湖ホール友の会の一般会員やサポート・特別会員の数は、コロナ禍における公演の中止の影響もあり一度は落ち込みましたが、コロナ禍で苦しい劇場を応援しようという支援者も徐々に増えております。

【④地域との連携強化】

「地域連携公演」では訪問先の合唱団・児童合唱団とコラボレーションをするだけでなく、地域の名産品を衣裳や小道具に取り入れるなどの取り組みを通して、舞台芸術と地域文化、双方への興味関心を喚起する総合的な地域の支援・活性化事業となるよう努めました。このことは「新しい観客の創造」に繋がるとともに、ゆくゆくは地元企業からの寄付・協賛、地場産業との更なるコラボレーション等、互恵的パートナーシップを今後築くための礎となったと考えます。

以上のことから、持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるものと考えます。